

会 議 録	
会 議 名	平成 26 年度 第 6 回丸亀市行政改革推進委員会
開催日時	平成 26 年 11 月 21 日(金) 10 : 30～11 : 50
開催場所	丸亀市役所本館 2 階第 3 会議室
出席者	(出席委員) 秋山 千枝、日野 明世、溝渕 由美子、三野 靖、山本 直久、浮田 和恵、 小野 賢治、鈴木 巖、中尾 恵子、馬場 俊作、福岡 由紀子、吉川 哲 (欠席委員) 北角 幸弘、松下 孝江、尾崎 真理、山下 哲司
議 題	(1)第三次行政改革推進プランの骨格(案)について (2)その他
傍聴者	2 人
事務局	山田市長公室長、小山政策課長、渡辺政策課副課長、富士川担当長、真鍋主査
発言者	議事の概要及び発言の要旨
小山政策課長	ただいまより、第 6 回丸亀市行政改革推進委員会を開催します。 本日はたいへんお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。議事に入ります前に、配布資料の確認をお願いします。 ・第 3 次行政改革プランの骨格 (案) ・【別紙】第 2 次行革推進計画における目標未達成の取組 ・行政改革推進委員会スケジュール ・【参考資料】行政改革についての市民アンケート、コミュニティ区域図 以上、お手元にお揃いでしょうか。 それでは、以後、会長に議事進行をお願いします。
日野会長	それでは、私が議事を進めさせていただきます。 まず、委員総数 16 名のうち 12 名の方がご出席しておりますので、丸亀市付属機関設置条例第 7 条により、本会議が有効に成立していますことをご報告申し上げます。 本日の議事は、「第 3 次行政改革推進プランの骨格 (案) について」と「その他」です。まず、議事の 1 「第 3 次行政改革推進プランの骨格 (案) について」事務局の説明を求めます。
政策課真鍋	<資料に基づき説明>
日野会長	それでは、委員の皆様からご意見等をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

馬場委員	アンケート結果を見ると、82%の人が住みやすいと答えています。丸亀は温暖な気候で災害も少なく、豊かな自然や歴史文化に恵まれ、多くの商業施設が揃っていることで生活しやすい環境が整っています。一方で、行政サービスの面では、子育て家庭や高齢者にとって暮らしやすいまちには、まだまだなっていないと感じます。これから各地で人口減少が進む中で、いろいろな施策を打ち出して魅力あるまちづくりを進め、だれもが住みよい丸亀を作っていくという難しい時期を迎えています。第3次改革でも、限られた財源の中で、様々な面で生活しやすいまちづくり、市民サービスの向上に力を入れて欲しいと思います。
三野委員	アンケートに関していうと、全体では、行革について47%が進んだ実感がなく、進んだと感じている人は24%に過ぎませんが、年齢別に見ると、70代以上では、37%がある程度進んだと感じています。また、行革が進んだと感じる理由として、市役所が迅速丁寧な対応になったが年齢が上がるにつれて高い評価を得ています。行政との距離感が近く、関心の高いと思われる高齢者とさほど行政に関心を持たない若い世代では大きく評価が異なっており、必要以上に過小評価する必要はないと思います。そして、関心の少ない若い世代に情報を届けること、関心を持ってもらうことで、大きく評価を変えることができると思います。
鈴木委員	アンケートの回収率自体、高齢者ほど高いです。自治会加入率にも同じ傾向が見られ、若い人の関心がないことがうかがえます。「市民力」をどのように上げていくかが大きな課題になると思います。
小野委員	「市民力」に関して言えば、民間企業に市役所との係わり、協力関係を持ってもらうことが大切になると思います。若い人たちは、昼は仕事、夜は家庭という生活になっていると思うので、仕事の中で市役所との係わりが生まれることで、市への関心が高まるのではないのでしょうか。 それと、体系図の中に「アウトソーシング」という言葉が使われていますが、分かりやすく伝えるためには、カタカナ表記を避けて、「外部委託」の方が良いのではないですか。
小山政策課長	今回、あえて「アウトソーシング」という言葉を用いたのは、これまでの「外部委託」に加えて、アドバイザーのような人的な民間活力の活用等も含めて、もっと広い意味で捉えてもらうことを意図したものです。「アウトソーシング」という表現が適切かどうかは再度、検討します。
中尾委員	今回のプランは、「市民力」「地域力」を重視して、それが「行政力」の強化にも繋がるということで、よい考え方と思います。第2次改革の進行管理であまり進まなかった協働事業は、「市民力」や「地域力」が中心となるべきですが、それをリードする「行政力」も重要です。難しいことですが、「市民力」や「地域力」を上げる中で、「行政力」が力添えとなるよう取り組んで欲しいと思います。

三野委員	「市民力の発揮」の部分で、市役所側の取組が並べられていますが、「市民力」というときに、自分たちのことは自分たちで行うという能動的な取組が必要ではないでしょうか。体系図を見渡しても、「市民力」のインパクトが弱いように感じますので、「市民力」の集まりが「地域力」であることを考えて、オーバーラップする部分もありますが、その仕分けを見直した方がよいように思います。 また、「市民力」「地域力」「行政力」を融合して「自治力」を伸ばしていくということであれば、大目標に「自治力」を掲げた方がよいのではないのでしょうか。 あと、イメージ図で、「行政力」があって、「市民力」「地域力」があるように見えるのですが、今回の行革では、ベースにあるのが「市民力」と「地域力」と思いますので、そう見えるよう直すべきだと思います。
馬場委員	合併後、17の地域コミュニティが立ち上がり、今では、いろいろと活発に活動するようになっていきます。「市民力」と「地域力」は、確かに高まっていますので、行政ができるところは手助けして、暮らしやすい丸亀にしていかなければならないと思います。行革の成果は、市民が感じなければなりませんので、アンケートの結果を素直に受け止めて、市民は何をしてもらいたいのか、進んでいない分野は何かといったところを十分に検討して、前向きに進めていかなければなりません。
小山政策課長	アンケート結果を見ると、行政との距離感を縮め、行政情報を身近に捉えてもらうことが大切と感じます。特に若い力をどんどん活用していくことが重要になると思いますが、最近は大学等も社会貢献に力を入れていますので、そういった力をいかに行政に取り入れていくかという点が次の行革の大きな課題になると考えています。
日野会長	協働が弱いという話ですが、アンケートを見ると、市やコミュニティなどが開催するイベントへの参加やボランティアには参加してもよいと言う人が多くいますが、公募委員など計画段階から参加したいという人は非常に少ないという結果が出ており、何らかのサポートがないと、計画段階から係わりたいという人は増えないし、「市民力」も伸びていかないと感じます。これから地方分権や人口減少、少子化が進むと書かれていますが、そのような状況の中で、行政が市民に求める役割が何かということをはっきり示せるプランにできないだろうかと思います。その点で、さきほどの三野委員の意見にもありましたが、「市民力」の部分が行政の用意したものに市民が乗るような内容なので、じっくりと考えた方がよいと思います。
中尾委員	これまでは、市民の中に力のある人はいても、それが実になっていなかったと思います。これからは、その現状から、市民が自らの力でこれからの丸亀を作り上げていけるようにするよう変えていくことが大事になってくると思います。いろいろな事例を参考にしながら、骨格作りにも役立てて欲しいと思います。

小野委員	公募委員には、子育て世代や共稼ぎ家庭は時間的な制約などから入りたくても入れないと思います。そのような人たちに参加してもらうためには、企業の理解、協力が必要になるので、具体的に企業に理解を求める取組などもプランに書き込んではどうでしょうか。
山本委員	基本目標の 1 つに、「さらなる市民サービスの向上」が掲げられていますが、アンケート問 7 を見ると、サービスが充実するなら、負担が増えても仕方ないは 19%で、直接利用者の負担を増やすべきは 48%、負担が増えるなら、サービスを充実する必要はないは 14%となっており、「市民負担が増えるようなサービスはいらない」という結果が出ているように思います。プラン策定の上でこの結果は念頭に置くべきだと思います。
三野委員	そこを詳しく見ると、各世代ともに直接利用者の負担を増やすべきという割合が多く、これは、サービスの充実のために市民全体が負担を分かち合うという覚悟はできていないことを示していると思います。このような状況で、基本目標である「さらなる市民サービスの向上」とは何を意味するのでしょうか。アンケート結果を見ると、市民はそれを求めているのではないかとも取れると思います。負担とサービスのあり方を考えることは難しいですが、行革の観点からすると、負担とサービスの関係はセットなので、プランの中に書き込んでもよいのではないのでしょうか。
日野会長	第 1 次改革では、財政再建を主眼に置き、市民サービスまでは手が回らなかったもので、第 2 次改革では、成果を市民が実感できるようにサービス向上にも力を入れました。そこで、次の第 3 次改革ですが、市民はさらなるサービスの向上を求めているとはいえないとも受け取れるアンケート結果を見ると、例えば、市民サービスの「向上」を「充実」に言い換えるなど、基本目標は変えた方がよいと感じます。基本目標は柱になる部分なので、各委員のご意見をうかがいたいと思いますが、いかがでしょうか。
馬場委員	アンケート結果だけに捉われることなく、これまでの成果や見直すべき点など広い視野で考える必要があると思います。
三野委員	「行政にしてもらう、でも負担は嫌だ」という意見が大勢のようなので、「市民力」「地域力」を打ち出すにあたっては、その考えは通用しない、根本的に「行政にってもらう」という市民の感覚を変えなければならないというメッセージを出すべきだと思います。
馬場委員	市民の中で、そのような感覚はなくなりつつあると感じます。

小野委員	市民全体の負担が増えるというイメージは市民に正確に伝わっているのでしょうか。現実にはサービスが上がれば市民税が上がるということはないですし、理解しづらいのではないのでしょうか。
三野委員	負担とサービスの関係がどうなっているか、ということを示す努力は必要と思います。
日野委員	他に意見もないようなら、これまでの意見を汲んで、事務局で素案を作ってくださいようになりますが、よろしいでしょうか。
小山政策課長	今、議論していた基本目標は、プランの肝になる部分ですので、委員会である程度の案を示していただければと思います。
日野委員	今すぐに案をとすることは難しいと思いますが、何かご意見はありますか。
小野委員	時代も変わっていますので、第2次改革の基本目標を引き継ぐという考えは見直せばよいと思います。
鈴木委員	「市民サービス」という言葉が行政の提供するサービスをイメージさせていると思うので、「市民生活」という言葉に置き換えてはどうでしょうか。
三野委員	「さらなる」という言葉が気になるので、「自治力と市民生活の向上」ではどうでしょうか。自分たちで生活を向上させていくというメッセージになると思います。もう1つの「持続可能な行政システムの構築」についても、第3次改革の質重視の方向性から見ると、「行政システム」ではなく「地域」や「丸亀市」などに置き換えたほうがしっくりくように思います。
日野会長	今の2つの目標は、「市民力」「地域力」が全面に打ち出されているように感じます。合わせて「行政力」も打ち出すなら、「行政力」に係わる目標をしっかりと示した方がよいようにも感じます。
溝渕委員	基本目標に関連して気になる部分があるので聞きますが、説明文の中に「第3次改革では、今あるまちづくりのしくみを変える改革として、」とあります。これまで丸亀市では、自治基本条例や総合計画に基づいて、市民と市役所が対等に協働、協創でまちづくりを進めてきたと思いますが、それを変えるのでしょうか。また、3つの力にしても、何も新しい考えを示したわけではなく、これまでもそういった方向性でまちづくりが進んできたと思うのですが、どうでしょうか。そもそも、総合計画と別に行政改革があるのは、行政内部の改革のための計画作りと思っていたのですが、どのように考えればよいのでしょうか。

山田市長公室長	確かに「市民力」をこの計画の中で打ち出すことに是非があると思います。ただ、中身は体系図にあるように「市民力」を発揮できる環境をつくるという行政側の取組なので、どのような示し方をすれば中身が伝わりやすいかについても審議いただきたいと思います。
馬場委員	自治基本条例や総合計画などに基づいた行革であるべきと思います。
溝渕委員	行革計画とは、市民が主役となる暮らしやすいまちづくりを進めていくうえでの行政側の努力目標や指針になるものではないのですか。
小山政策課長	行革計画については、まさにおっしゃるとおりです。先ほどの「まちづくりのしくみ」という表現に関して言いますと、意味としては、行革の中でしくみを変ええるということですので、「行政側のしくみ」ということです。「市民力」「地域力」を生かして「行政力」を強化するという意味合いで使っていますが、「行政のしくみ」とした方がしっくりくるように思いました。
三野委員	これまでの議論を通じて、第3次改革は、一般的な量的改革とは異なる、まちづくりまで関連した質重視の改革のように感じますので、そこに「行政のしくみ」を変ええるということには少し違和感を覚えます。「行政」に特化するのか、「市民」や「地域」まで含めるのかは難しいところではあると思います。
小野委員	行政の範囲をどう捉えるかというところで、行政＝市役所と決め付けてしまうことはないと思います。また、「しくみを変ええる」と言ってしまうと、良いことも悪いことも変えてしまうというような感じを受けます。良いところは引き継ぎつつ、悪いところは変えていくということで「しくみを検証する」と置き換えてはどうでしょうか。
溝渕委員	行革計画は、市民が主役のまちづくりを支える行政の指針ということが分かりやすいと思います。
日野委員	行革を進めてきた中で、よりよいまちづくりにとっては、行政だけが変わるのでなく、市民も地域も変わっていかなければ前に進めないというメッセージを示す第3次改革ということではいかがでしょうか。
溝渕委員	そのように市民も地域も変わるために、行政は何をするのかを書くのが、行革計画と思います。
山田市長公室長	考え方としては、そのような方向性をプランにしたいと思っています。市民や地域にも目を向けつつ、行政には何ができるのか、どう改革していくのかという考えです。

三野委員	やはり、「市民」や「地域」と「行政」の目指す方向は同じにはならないと思います。プランのコンセプトとして「市民」「地域」を入れるのはよいが、「行政」とは分けて考えないと、不調和が起こります。
日野会長	体系図を見れば、よく分かるようにはなっていると思います。
秋山委員	体系図では、行政力は市役所であると明記されています。これまで行革に委員として係わる中で、行政がしっかりしないと市民の幸せはないと感じています。よい行政が市民や地域を下でしっかりと支えて、はじめて市民の幸せが生まれると思います。
馬場委員	市民だけでできることには当然、限界があるので、行政にしっかりとしてもらわなければならないことは多くあると思います。
小山政策課長	「市民」も「地域」も「行政」も狭くも広くも捉えられる言葉ですので、プランの中で定義づけはしています。また、「市民力」も「地域力」も視点として取り入れているものであり、体系図にあるように、行政がどう絡むか、どのように係わりを変えて行政に生かすかという取組ばかりですので、ここは、そのままの形でプラン作りを進めたいと思っています。
日野会長	だいたい意見が集約されてきましたが、基本目標について、1つは「自治力と市民生活の向上」として、もう1つの「持続可能な行政システムの構築」については、いかがですか。
三野委員	行革は行革として、「市民」や「地域」とは切り分けるという意味で、そのままよいと思います。
日野委員	それでは、基本目標は「自治力と市民生活の向上」と「持続可能な行政システムの構築」ということで、事務局には素案作りに入ってもらおうと思いますが、よろしいでしょうか。 <各委員、了承>
日野委員	その他については、特にないようなので、これで本日の会議を終了します。ありがとうございました。